

説教「仲間たち、組み合わせられて出来ていく」

詩編一一八・二二～二五

エフェソに・一一～二二

牧師 森田恭一郎

今日の説教題を「仲間たち、組み合わせられて出来ていく」としました。キリストにおいて、この建物全体は組み合わせられて成長し、主における聖なる神殿となります(エフェソ二・一二)に基づいてつけた説教題です。教会を建物に例えて語っています。私たちはその建物の素材で続けて、キリストにおいて、あなた方も共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです、と語ります。教会の私たちが、組み合わせられて成長し、神の住まいとなる。成長していく、何か夢のある話です。

エフェソ書は前半で、人間は神様との関係も、人間同士の関係も、対立し遠い者であったが、十字架のキリストによって、新しい者に造り変えられて、人間同士も敵意の隔ての壁が取り壊されて近い者となった。あの私たち人間をこう語ります。以前は、神を知らずに神から遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです(エフェソ二・一二)。遠い近いというのは、何よりも神様と人間の関係です。神様との和解です。このことのために、キリストが十字架に付けられ血を流し、見捨てられました。「わが神、わが神、何故私をお見捨てになったのですか(マルコ一五・三四)。これを詩編は、家を建てる者の退けた石が隅の親石となった(詩編一一八・二二)、その石が土台とな

ります。そうやって神様と人間との和解の土台が据えられました。仲直りです。それで、実に、キリストは私たちの平和であります。何かとても大きな宣言です。

そして併せて、人間同士の関係が新しくなった。ここではイスラエルと異邦人の関係です。以前は対立していましたが、キリストの血によって近くなった。キリストによる平和ですね。人間同士の隔ての壁が取り壊されるのは、ただ仲が良くなるという仲直りではなくて、キリストの福音を土台にしてこそ実現する平和です。

キリストによる平和は、何よりも教会を造り上げます。従って、あなた方はもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わせられて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなた方も共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです(エフェソ二・一九)。

先日執り行われた東京神学大学卒業式での教団議長挨拶文が学報に載っていたので引用します。私たちは、しばしば、自分が遣わされた場で、不足していることばかりが目についてしまう。五人の給食の場面(マタイ一四・二三)、弟子たちは「パン五つと魚二匹しかありません」と言いましたが、主イエスは「それがあるから、それをここに(私の所に)持ってきなさい」と言われて、

用いて下さいました。これを読みまして、自分の携え持っているものを僅かであっても主イエスの所に持つていくことが大事だ。私の所に持つてきなさいと招いて下さる主イエスと共にいることが大事なんだと思われました。教会に集う皆さんも、教会員も長老も牧師も、このように、キリストの福音という土台の上に組み合わせられて、教会は建つていく訳です。

もう一つ紹介したいことがあります。先日の祈祷会出席の方がこう話されました。一二〇周年を覚えて、レジエンドの会とか懇談会を開いて、毎週礼拝で顔は合わせているけれども、名前は分からないし直接話をしたこともなかった。けれども懇談会で、お互いが近くなった。この話は、橋下通牧師の文章から「伝道奉仕」という四字熟語の言葉を味わった中での話なのですが、教会にあっても近いことが大切なのです。そして、そこから力が湧いてきて一人一人が活かされてくる」と話して下さいました。

私たちは「キリストの体であり、また、一人ひとりはその部分です」(1コリント一二・二七)。キリストが用いて下さる出来事の中で、近くなるから部分、部分のお互いが組み合わせられて成長して、霊の働きによって神の住まいになります。

今日はこの後、第二回定期教会総会です。第二回というのは第一回が五月に前年度を振り返る決算総会、第二回総会が次年度の活動を展望する予算総会です。総会資料をご覧いただきたいと思えます。二〇二六年度活動方針(案)を掲載していま

す(六頁)。

今日の総会は、節目となる新たなスタートの総会であると考えています。昨年、教会創立一二〇周年を記念しました。これまでの営みを振り返って、そこから新たな一步を踏み出そうとする総会です。

河内長野教会はいつしか「**宣教・教育・奉仕**」という標語を掲げてきました。教会にあつては礼拝と伝道の宣教活動、教会学校に代表される教育活動、そして様々な奉仕活動があり、地域にあつては、教会の宣教活動、学園の教育活動、奉仕は保育園に代表される福祉活動を担ってきました。このことを宣教基本方針に反映しています。

そして今年提示しました活動方針には、これまでの幾つかの標語をまとめてみました。当教会の理念聖句として「**栄光神に在れ**」。百周年記念誌の題名ともなりました。そして三つの方針です。こんな教会として活動したいという方針です。

一つ目は特に礼拝を念頭に「**行ってみたい、また来てみたい、河内長野教会**」、二つ目は組織を新たに造り上げる中で確認した「**共に御業に仕え支え合う教会**」、三つ目は一二〇周年を記念するにあたって気付いた「**地域の信頼に応えて**」。これらの理念や方針の標語は、一二〇周年までの積み重ねの中で編み出されてきた柱です。そして二一年目からの歩み出しは、これらの柱が組み合わされる段階になった所での歩み出しです。

そして組み合わせていく具体的なこととして、二一年の今年度から始める短期、中期、長期の方策を掲げました。総会議事の中で確認します。

これらのことが目指すのは「**栄光神に在れ**」です。教会に招かれ礼拝をささげる私たちの姿、また私たち教会の活動の歩みが、私たち自身にとりましても地域の皆様にとりましても、神様が生きて働いていらっしゃるのだなと思わせてくれる生き姿になつて、栄光が神に帰せられる教会の私たちに成る訳です。